

第2回デジタルデータ活用による商店街等活性化検討会 議事概要

日時：令和4年10月24日（月）13：30～15：30

場所：高知会館 3階 飛鳥

出席者：13委員中13人出席、アドバイザー1名

1 開会

進行：経営支援課吉良課長補佐

2 議題

進行：古沢委員長

(1) 高知市商店街における人流データ計測機器の検討について

資料1：第1回検討会等の主な意見

資料2：参考見積比較表

説明：経営支援課 熊谷チーフ

○委員より情報提供（資料を元に説明）

- ・必要な情報をデジタルデータとして蓄積、分析が必要
- ・ITツールは手段であって目的ではない
- ・どのような目的でデータが必要か?ということをも十分検討する必要がある。
- ・システムで何がしたいかが重要。
- ・加工分析する基盤の核となるデジタルプラットフォームは必要となってくるのでは。
- ・ランニングを誰がどうやっていくか、の検討は必要
- ・プラットフォームを誰が構築して運用するかも併せた検討が必要。
- ・IT機器活用による最適なテナントミックスの実現
- ・高知県農業振興部のIOPなども参考となる。

○委員より

資料4：論点整理用メモ

今回の検討会における検討事項は以下の3点としたい。

- ①中心部のみか周辺も含めることとするのか
- ②段階的に行っていく事へのメリットとデメリット
- ③予算計上に当たっての上限設定

予算計上については、あくまで枠どりであり、今後の検討会で議論を深めたい。

○委員より見積概要（全体）説明

- ・回遊について、顔・歩く歩様を使うが、多くの方がマスクをしており、精度がでない。
- ・工事費は概算だが、変動はある。最終的には現地視察で決定する必要あり。
- ・エッジベースはLTE、クラウドは光ファイバーを利用。

(委員意見)

(委員)

- ・ランニングは機材のメンテナンス費用のみか？会社によってはBIツール分析費用が入っているものがあると思う。もう少し詳細を事務局で確認する必要があるが、委員はどう考えるか。

(委員)

- ・メンテナンスのみと思われる。

(委員)

- ・A、B、C社は、C社は夜間撮影不可とあるが、A・Bは夜間撮影可という認識でよいか。

(委員)

- ・明るさについてはカメラ撮影は一定の光量が必要なので、現地の確認が必要だが、おそらく難しいと思われる。

(委員)

- ・回遊についてだが、カメラ間で同一人物を判定できるか。

(委員)

- ・今回のケースだとA地点からB地点を追っているだけで、100%追うことは困難。クラウド上での顔認証であれば、1～2万人の規模は対応可能。しかしながら、個人情報保護法、個人情報保護委員会に基づく取り扱いもあり、データの消去タイミングなどについては、調整が必要と考える。

(委員)

- ・A、Bのカメラに人は区別ができるか。

(委員)

- ・可能である。

(委員)

- ・①ランニングは月額×12ヶ月で計上されているという理解でよいか。
- ・②データ連携は初期導入の時点ですぐ連携可能か。大学研究等で生データを活用する際の留意点はあるか。
- ・③システム対応年数は何年か。

(委員)

- ・①12ヶ月分と考えてよい。
- ・②性別や時間等のいくつかのポイントはあるが、特定のデータによる連携は可能だが、生データの保管は個人情報の観点から難しいと考える。また、個人情報をクリアしても、こういった情報の取り扱いに関してはSNS等での炎上リスクの懸念もあり、慎重な取り扱いが必要である。クレジットカード等の情報などと同等と考えていただきたい。
- ・③エッジ系は機器の費用、クラウドは契約内容において確認する必要がある。対応年数について、エッジは10年持たない可能性はある（コンピュータが持たない）。

(委員)

- ・人流データについて様々な取り組みを行っているが、カメラの活用が最も詳細なデータ取得ができる反面、コストも高い。
- ・データ取得については、回遊で網羅するか、サンプルにするかでデータの取り方が異なる。カメラは網羅するには最適。
- ・金額は適正だと思う。しかしながら膨大なデータは加工に工数がかかるので一定程度は加工費用の上乗せが必要と思われる。
- ・カメラで取得できないデータの補完として、ドコモ等のGPSなどの人流データを購入して活用するなど検討してもよいのでは（若干費用として積んでおくことも必要か）。今から活用するデータ項目を決め打ちするのは難しいと思われる。
- ・法的な問題については、個人情報保護のケアが必要。札幌市の有名な事例として、地下道でカメラを設置し、炎上して中止に追い込まれた。情報の取り扱いに関しては、合法、違法の観点だけでなく側面がある。
- ・アマゾンで売っているピープルカウンターは人数しか計測できないが、面で数を付ければ様々な活用ができる。属性が分からなくても、活用できることもある。

(委員)

- ・機器が減るとコストは下がるものなのか。
- ・UIのデザインなどは費用に組み込まれているのか。
- ・回遊については、店舗間との相関関係などの分析ができれば。

(委員)

- ・コストと機器の関係については、外部データで分かることがあるので、組み合わせで変わる。
- ・良いUIであれば、追加コストはかかると思う。
- ・こういうことをやりたい、というのがはっきりしているのであれば、どの場所にカメラを設置するか、ということが大切になると見られる。

(委員)

- ・コスト面は、性別・年代・男女比率など必要な取得データで増減する。
- ・基本はUIの費用も組み込まれていると思うがこの画面が欲しい、などのカスタマイズ

は別途請求となるだろう。

- ・各商店主でいうとECとの連携などまで行うのであれば、サービスの形態をSaaSにして、カスタマーサクセスをセットにする手もある。プロポーザルで提案してもらうのがいいのでは。

【議論のまとめ】

(委員)

ここまでの議論を以下にまとめた。

- ・議題の(2)となるが、データ分析する際のサポートに関するコストについて。
- ・UIの工夫など、見えていない費用としてデータ分析の費用、サポート費をパッケージでやるのか。別途分析費用として計上するのか。
- ・AIカメラやLiDERの活用とあわせて、取得できないデータ(例:NTTのモバイル空間統計など)の適宜購入なども検討が必要では。
- ・回遊データはどうするのか?サンプルか網羅的な取得か。
- ・生データの保存は将来的にやりたいとしてもかなり注意が必要。エッジでは現実的でなく難しいが、クラウドなら可能性はあるとみられる。
- ・カメラ設置のエリアは中心商店街とするか。周辺の商店街も含むのか。中心部をAIフルスペック、周辺を軽く(今回はLiDERで数だけ計測、スポットで測る(性別・年代含む))か、中心・周辺ともにフルスペックでよいのか等も検討材料となる。

(委員意見)

(委員)

- ・帯屋町筋と周辺に定義すると、周辺の判断は自分では難しいところではあるが、通行量でいうと、中心で高度な分析、後に周辺に波及していくというほうがいいのではないかと(商店街のご意見を聞き、まとめていく必要があるが)。商店街の特徴に合わせて設置内容を変えろという方がいいのでは。

(委員)

- ・委員と同じだが、カメラに必要な照度のことなど考慮も必要(周辺は計測が可能でないかもしれない)。

(委員)

- ・少し論点から外れるが、分かるものであれば、郊外SC、卸団地など、高知駅も含めたデータ活用ができれば良いと感じる。

(委員)

- ・各商店街の個人事業主含め、データ分析(個店のデータとの連携含む)をして何をアクションすべきかコンサルを入れることも考えてみてよと思う(仕組みや土壌づくりを含めて)。また、議論については3ヶ月・半年、もう少し長い期間が必要ではない

か。せっかくシステムを入れるのだから個店の売上につながれば良いと思う。

(委員)

- ・通行量はにぎわいの指数でしかない。例えば個店をピックアップしてコンサルに入ってもらって、体験しながら学んでもらうといった、発展していける仕組み・システムにしたらよいと考える。個店がデータ活用を学ぶことも必要だが、自分たちが個店に必要な情報を吸い上げていく必要もあると感じている。

(委員)

- ・見積比較表だが、今回の見積は人流のデータ取得だけなのか。例えば天気などのデータ等と別途連携・開発することになるのか。また、そういったことはできるのか。

(委員)

- ・見積にどこまでデータ範囲が含まれているかは不明。連携しやすいデータにしておけば良いが、開発コストは一定かかるものだと思う。

(委員)

- ・お金があれば、業者としてもやる、ということになると思う。

(委員)

- ・これまでの意見を踏まえ、論点の整理をすると、高知市中心部をメインに実施し、デメリット等の確認も行いながら段階的に範囲を拡大させていく方向としたい。また、委員のご意見は、データ購入の部分で生きてくるのでは。段階的にやるデメリットについては委員から、ご説明いただきたい。

(委員)

- ・デメリットかは分からないが、後年度も継続して補助とするかどうかがある。だからと言って一気に補助する、ということにもならない。次回以降の会議で整理していきたい。

(委員)

- ・調整が必要な項目もあると思うが、予算の上限を決めていきたい。

(委員)

- ・カメラ等の費用は妥当性があるとのことだったので、コンサル費等、隠れた費用もあるため、こちらで調整した上で再度補助上限について Slack でご連絡・協議したい。

(委員)

- ・金額は大まかなものとしたい。

(委員)

- ・今後、Slack で決めていくのか。

(委員)

- ・頻繁に議論することなどは考えていない。参加されていない方もいるため、決めるのはあくまで検討会の中であって、Slack は情報共有程度。

(委員)

- ・商店街側での情報共有も必要。ランニングコストは不要と説明してきた経緯もある。協

議の際の前提として、商店街の負担が発生しうることも考慮して検討いただきたい。

(委員)

- ・金額については、今回の協議会で結論が出なかったという整理としたい。

(2) データ活用を促進するための支援策について

資料3：商店街関係者の参画・挑戦を促すための支援策（案）について

(委員意見)

(委員)

- ・導入するからには商店街の方が参画することが大切。商店街の委員がメインではあるが、外部のIT導入委員からも積極的な意見をいただきたい。

(委員より趣旨説明)

- ・ここで得られたデータをどう経営に活かす、という観点が大切。
- ・データを渡してあとは頑張って、では活用が難しいと考える。
- ・ご意見は支援策の予算化の参考としたい。

(委員)

- ・最初に委員が言ったように、目的が大切と思っている。人流調査、防災・観光などは活用イメージが思いつくが、商店街の活性化への活用にはピンとこない。目的を明確にしないといけない。
- ・弊社では、産振センター、ココプラ、セミナーなどに参加し、最低限のデジタル化はできている。県から既存で提供されている勉強会等へ積極的に商店街の個店が参加していくことも必要と考える。

(委員)

- ・AIカメラのデータだけでは活用できない。カメラの行動履歴+POSレジデータや店舗内カメラ等と組み合わせた取組が必要ではないか。カメラでどこまで詳細なデータが提供できるかは重要と考える。

(委員)

- ・何を目的にするか、データの出口を共通で想定することが必要ではないか。データ活用のフェーズまでは各事業者はできておらず、ケーススタディにより、データ利活用の支援までが重要と思われる。通行量データはそれだけでは、活用できないが、自社データとの組み合わせでデータを活かすことができる。データ活用の部分は支援を手厚くした方がよい。

(委員)

- ・機運の醸成、ほぼこれが全てでは。最終的に商店街がどう捉えて活用するか。
- ・不要なデータを切っていくことも重要と考える。

- ・先進事例の活用の仕方についても商店街・検討会でも共有し、具体的に経営者の方に理解いただくことが必要。

(委員)

- ・受取側の機運も重要。自前で活用するための予算の勘案も必要か。

(委員)

- ・我々の観点だけで意見を申し上げると、顧客にはグローバル企業が多いので、カスタマイズしたシステム開発をしている。産学官の連携は興味を持っており、アカデミアでの人材とのコンタクトができる機会としてプラスに見ている。商店街の中に学生が入って、データ分析を行う、という取り組みの中で、良い人材がいれば企業側からしてもそういった人材を獲得したい。

(委員)

- ・どういう課題を解決していくのか。先進事例の成功・失敗事例を学ぶことも大切。効率アップ等できれば、新規出店のメリットにもなるのでは。そうすれば、商店街全体としてのにぎわいにも繋がるのでは。

(委員)

- ・2019年に帯筋の若手事業者で検討した際にも出てきたが、デジタル化しても検証の基礎がないといけないことが課題としてあげられた。検討会はデジタル関係のプロの方も関わっており、大変良い機会になっている。来街者の方の利便性の向上は必要だが、組合としては何をすればいいか分かっていないと思う。2019年の国交省のガイドラインにも通行量は賑わい創出の指標としてあげられており、人流だけでは商店街にとってプラスにならないが、デジタル化を掛け合わせ商店街としてプラスになるようにしたい。

(委員)

- ・お城下ネットワーク、文化施設の連携イベント、日曜日なども連携して機運の盛り上げができればよいと考えている。先進事例については、委員やほかの皆さんにも次回以降でまたお話いただければ。